

男の巨根と愛を求める女 丘の上のビッチたちのオリ



まるで女体の動物園。裸の女たちがひしめき合い、ゆっくりと狭い空間で歩いている。

太ももは程よく筋肉質。何も身につけていない足はほんの少し土色に汚れて

いる。

脇を上げるとツルツルの綺麗な肌色の溝が見える。

女たちが原始的な人間の姿に戻るため、あえてこの施設にはハイスペックの生活機器は置いていない。

深い緑色のところどころ錆びたオリの太い鉄棒を掴んでまるで囚人のように目をぎらつかせている。

女たちは美人ばかり。腰はくびれ、お尻もしっかりと大きい。

悶々と募る性欲にたまらなくなったのか、女の一人は手を股間へと伸ばす。割れ目にはうっすらと透明な粘り気を含んだ液体が滲んでいた。

・・・・・・・・・・ペニスが欲しい・・・・・・・・。

すると、分厚い鉄の入り口から男たちがゾロゾロと入ってきた。

女たちを選別するためだ。

灰色のブリーフパンツを穿いている。当然ながら股間の前部は激しくモッコリ。

大きな山脈が股間についているかのよう。

それを見るやいなや、女たちは目を銀色にギラつかせる。

男が来たわ・・・おいしそうなおチンポよ・・・

オリの前には大きめの額縁が掛けられており、中に白い色紙が入っている。

そこには、女たちが

失ったもの

がそれぞれの手書きで簡条書きに書かれていた。

失ったモノ。

それは心の中に失ったモノだった。

誰しも心の中に空白の一つや二つは持っているが、彼女たちはここへやってくる選ばれた男たちに穴埋めをしてもらおうという目的だ。

例えば借金の苦い過去。家族の不幸の傷。さらにはストーカーの被害にあった経歴など。

心にぽっかり空いた穴。

しかし・・・単刀直入に言うと、女たちは遊び心でやっている。

男に癒してほしい。その巨根を自らの膣内に挿入して欲しいのだ。

根底の部分は。

心の傷はもう完全に癒えていると言っても言い過ぎではなく、心の空白で何も出来ないということではない。

社会性もあり、全体的にレベルの高い女たちばかりだ。

要は軽はずみのピッチであり、厳かな施設の佇まいとは裏腹に・・・重さ自体はないのである。

これはいわば一つの企画レクリエーションであり、現在世に溢れているマッチングアプリの類と似ている。

新しい時代を変える画期的な規格がないものかと、とある別の事業で大きな収益を持ち大きな資産を持つ団体が考案したものである。

このオリの施設で総勢1000組以上のカップルが誕生した。結婚もしたカップルもいる。

・・・・ここで一つのカップルが出来上がった。

二人はこの施設のある小高い丘を下りて街の方へ歩いていった・・・・。

こうして成立したカップルは、セックスによって未永く愛を育む。

女の心の闇や空白は、男がセックスや愛という別の形で全て埋めるといわ
けた。

————— 体験版は以上になります。—————